

やまとの名品

天理図書館

望驗西方在北山五岳區其廣大而六山其高
 名曰智古那特之特一座是坐於此丘鳴其聲此故号
 曰里此里有此礼墓此即伊弉諾命所及号指墓者昔
 大帶日子今排尔南別棟之御儀刀之八咫劍之上結尔
 八咫弓下結尔麻布都鏡繫特賀毛麻山直身丸祖是
 長命言伊弉諾命為棟而排下行之特到播磨国高瀬之濱
 請飲度此河渡子紀洋国八玉申日我為天皇誓人否
 尔特勅云朕公雖然獲度度子對日邊飲度者宜賜
 度信於是所取為道行備之弟鐙投入舟中則鐙尤
 明炳然滿舟度子得信乃度之故去朕若消邊到未
 各蘇齋御井供進御食故日齋御井余時年南別棟
 間而致為長之即道度於南此蘇麻場於是天皇乃到
 磐台松原而寬前之於是曰尤向海長也天皇問云是
 誰尤乎漢受武良前對曰是別棟所養之尤也天皇
 勅云好吾我故号言首乃天皇知在於此少場所飲度
 到阿閉味供進所食故号阿閉村又捕江魚為御林物
 故号御林物故号御林江又乘舟之屢以御作御林物
 度相過勅云此場隱愛是仍号南此蘇麻於是所母
 与別棟舟同編合而攝林候伴志治余名号大舟伴志
 治邊到迎尔南六越村始成將家故曰六越村勅云此
 電浪響鳥聲其聲南速於高宮故曰高宮村是時
 造滴殿之履所号滴屋村造藝殿之履所号藝田村

はりまのくにふ ど き
播磨国風土記(国宝)
 平安時代末期写 1軸
 紙高28cm 全長8m86cm

平成二十二年(二〇一〇)、奈

良県で「平城遷都一三〇〇年祭」が賑やかに開催されたことは記憶に新しい。その平城京遷都から遅れること三年、和銅六年(七一一)に元明天皇は、諸国に風土記作成の勅命を下した。

風土記はその命に従い、調査結果を中央政府に報告した官撰の国別地方誌のことである。後世のものと区別して古風土記とも呼ばれる。

図に掲げた『続日本紀』和銅六年五月甲子の条によれば、諸国郡郷の地名はめでたい文字を以て記し、その地の産物や、土壌の肥沃さ、地名の由来、古老旧聞の伝承などを記録して報告

させたことがわかる。



しかし、この時に作成されたであろう六十余国のうち、そのほとんどは散逸してしまい、今では「常陸」「出雲」「肥前」「豊後」「播磨」の五風土記が伝存するのみである。

掲出はこのうちの『播磨国風

土記』(播磨国は現在の兵庫県南西部)で、巻初の総説部分と明石・赤穂の二郡を欠くが、賀古(前欠)・印南・飾磨・揖保・讃容・六禾・神前・託賀・賀毛・美囊の十郡を残し伝えている。

書き写された時代は、平安時代末期で、本書は現存『播磨国風土記』の諸本中唯一の祖本であるばかりでなく、諸国風土記の伝本中最も古い写本でもある。永らく三条西家に秘蔵され、その存在が知られたのは江戸時代極末期。縁あって本館の収蔵となり、昭和四十年五月国宝に指定された。

(天理図書館 岡本千佳)